

Message

カブリ数物連携宇宙
研究機構記念式典
におけるスピーチ等

村山 齊 むらやま・ひとし

カブリ数物連携宇宙研究機構 機構長



皆様、

本日は、IPMUがフレッド・カブリさんとカブリ財団の名前を冠する式典にご臨席いただき、誠にありがとうございます。この日を迎えるに当たり、ご協力いただいた多くの方々に御礼申し上げます。特に、フレッド・カブリさんとカブリ財団のボブ・コン理事長には深く感謝の意を表します。

この研究棟の完成記念式典が正にこの場で行われました際に、私はこう申し上げました。「夢はなかなかかなわないものですが、今日は本当に幾つかの夢が実現しました。」それからたった2年後にもう一つの夢がかなったことは驚くべきことです。私たちは、有名な世界中のカブリ研究所ファミリーの一員となるにあたり、多大なご寄付をいただき、将来を保障する一助となる基金を創設していただきました。日本で、この東京大学にカブリ研究所を設立することは、IPMUが影も形も無かった頃から私たちが夢みただけで、本日は、カブリ・ファミリーに私たちを歓迎するため、ケンブリッジ大学、中国科学院、北京大学、スタンフォード大学の各カブリ研究所長にご出席いただきましたことを大変う

れしく思っています。

昨日、私はフレッド・カブリ、ボブ・コン両氏と共に野田佳彦総理大臣を表敬訪問しましたが、カブリ氏に対して総理は次のような素晴らしい発言をされました。「基礎研究は、人類にとって重要な共通の財産です。その基礎研究を支援しているカブリ財団の貢献に対して、心から敬意を表したいと思います。」また、更に「今回日本の大学、東京大学が支援先に選ばれ、大変名誉に思っております。政府は世界中からグローバルな人材を集める必要があると思っており、IPMUがそのさきがけとして注目され、ご支援いただいたことは有り難いことです。」と述べられました。

続いて平野博文文部科学大臣が「6つのWPI拠点の1つがカブリ研究所として選ばれるに至ったことに大変意を強くし、我々の選定が間違っていなかったと喜んでます。」と述べられました。

しかし、今回お会いして私が最も感銘を受けたことは、カブリ氏が全く純粋な動機により自分の資産を投じて基礎研究を支援するという事実です。彼は、我々が何を研究すべきか、誰を雇用すべきか、何に資金を使うべきか、

そのようなことは決して言いません。彼の寛大さには驚くばかりです。フレッド、あなたは実に素晴らしい。私は、ずっと以前からあなたとは知り合っていたように感じています。

言うまでもないことですが、フレッド・カブリ氏もボブ・コン氏も私たちが最先端の研究をしていなければ決して支援対象として選ぶことはなかったでしょう。私はカブリIPMUのメンバー全員に対し、優れた研究を行っていることを感謝します。そして、私たちは更に良い研究を行うことができるのです！

このカブリ財団からの寄付と濱田総長の力強い約束、及び文部科学省の活発な支援のおかげでカブリIPMUは恒久化に向けて大きく前進したことを私は信じて疑いません。

最後に、この式典を滞りなく挙げるため、裏方として夜遅くまで働いてくれたスタッフに対して深く感謝したいと思います。私たち全員は一つのチームであり、宇宙に関する最も基本的な問題に挑戦する、真に世界一流の国際研究拠点になるという目標を目指しています。

フレッド、ボブ、そして本日ご出席の皆様、どうもありがとうございます。

濱田 純一 はまだ・じゅんいち
東京大学総長



ご臨席の皆様

本日は、数物連携宇宙研究機構 (IPMU) を支える基金の設立のため、本学がフレッド・カブリ氏より多大なご寄付をいただきましたことを讃え、IPMUが同氏とその財団の名前を冠してカブリIPMUとなったことを記念する日であります。氏に深く感謝申し上げます。私は、人類の知識の発展を支える基礎科学へのカブリ氏の支援事業が、純粋で私心のない、心底からの動機によることに強く感銘を受けた次第であります。

また、本日の感激と喜びを分かち合うため、海外のカブリ研究所からご出席いただきました来賓の皆様にご感謝申し上げます。IPMUがかくも強力で優れた研究所ファミリーの一員となったことは、私の大きな喜びとするところでもあります。また、カブリ研究所を擁するかくも高名な諸大学に名を連ねたことは、本学にとって実に名誉なことでもあります。

私はカブリIPMUを本学の宝物と

考えております。東京大学の行動ビジョンとして私は「知の公共性と国際化の重要性」を強調しておりますが、IPMUはこのビジョンのシンボルであります。東京大学で最初の真に国際的な研究センターであり、宇宙について人類が持つ最も根源的な疑問に対して第一級の科学的成果を生み出しているからです。カブリIPMUは国内的にも国際的にも極めて顕著に知られた存在となっております。また、科学的成果の一般国民への還元に関心に取り組み、本学が非常に積極的に前向きであるという印象を与えております。カブリ氏からの寄付は、IPMUの国際的認知度を具体的に示す好例であります。

私はこの機会に改めてカブリIPMUを支援する意志を表明したいと思います。実際、私はカブリIPMUを本学の恒久的機関として存続させるために、東京大学国際高等研究所、即ちTODIASという新たな枠組みを構築しました。これは本学にとって1948年

以来初めての主要な構造改革であります。加えて、私はカブリIPMUに相当数のテニュアポジションを与えるべく、文部科学省と協議すると共に学内の調整を図っております。また、私はカブリIPMU及び本学全体の安定した未来のための基金をより強固に確立するため、寄付収入を増加させるための努力を推進しております。今回いただいた寄付は、本学の将来に向けての模範となるものであり、私はこのような取り組みが今後もっと容易となるよう、政府に働きかける所存であります。

私のご挨拶を終えるに当たり、村山教授の強力なリーダーシップを讃えると共に、このような多大な寄付を受けられたことを心からお喜び申し上げます。ご静聴いただき、ありがとうございました。

Message

フレッド・カブリ Fred Kavli

カブリ財団創始者・会長



濱田総長、及びご臨席の皆様、おはようございます。

米国と強い絆と信頼で結ばれた友人であり、同盟国である日本、また宇宙と自然と人間について知識と理解を得るといふ私たちの任務におけるパートナーである日本を再び訪れることができたことは光栄であり、格別な喜びであります。

私は地球の反対側、ノルウェー西部の高い山に挟まれた緑の谷間で成長しました。一方の山腹から他方の山腹まで、雷鳴と稲妻が谷を震わせるとき、私は自然の力と美しさを実感したものです。

また、オーロラが空を駆け巡り、白く雪に覆われた山の頂に至るまで空全体が燃え上がるとき、白い雪山の静寂と孤独の中で、天の川と、瞬く星と、想像を遙かに超える限りない宇宙とを、この目でがはっきりと見たものです。

私は、宇宙と惑星と自然、そして人間の不思議さについて考えを巡らせま

した。今でも考えています。

想像を超える大きさでありながら、知覚できない程小さな粒子でできている宇宙、そして力があるわけでもなく、長く生き続けるわけでもなく、頭脳によって地球という惑星を支配する小さな生命、人間。

ノルウェーの白い山の頂から長い道のりでした。ノルウェー工科大学で物理学を学んだ後、私はアメリカに渡り、南カリフォルニアに落ち着き、ビジネスの世界での長い旅が始まりました。

今、私の興味は大きな弧を描いて出発点に戻りました。最も小さな構成要素から一つは広大に信じ難いような驚異に満ちた空間までの全て、宇宙、もう一つは深く考える自然の支配者、人間の頭脳です。

人類社会に資するため、IPMUを世界のカブリ研究所群の一員として迎えることは格別の喜びであります。

IPMUは人類の知識と理解を広げるため、深遠な宇宙の謎を探究する優れた研究機関として国際的な名声を博

しております。このようなIPMUを誇りに思っている次第です。

カブリ財団は、科学を進歩させること、科学及び科学研究の役割に関する一般市民の理解を増進させること、並びに科学者とその研究を支援することに専心しております。

これは私たちがカブリ・ファミリーと総称している研究所群および財団の活動のネットワークを通じて達成されます。

現在のカブリ・ファミリーの構成は以下の通りです。

- 世界中の16の研究所、
- ノルウェーとの共同事業である天体物理学、ナノ科学、及び神経科学の3分野に対するカブリ賞、
- カブリ冠教授、
- 米国科学アカデミーの事業であるカブリ科学フロンティアシンポジウム、
- カブリ未来シンポジウム、
- 科学ジャーナリスト会議と賞、
- イギリスのカブリ王立協会国際セン

ター、及びその他の活動。
カブリIPMUは他の15のカブリ研究所の仲間入りをします。これらの研究所は次の大学等に設置されています。

物理学及び天体物理学では

- カリフォルニア大学サンタバーバラ校、
- スタンフォード大学、
- シカゴ大学、
- マサチューセッツ工科大学、
- 北京大学、
- 中国科学院、及び
- ケンブリッジ大学。

ナノ科学では

- カリフォルニア工科大学、
 - コーネル大学、
 - デルフト大学、及び
 - ハーバード大学。
- 神経科学では
- イェール大学、
 - コロンビア大学、
 - カリフォルニア大学サンディエゴ校、及び
 - ノルウェー科学技術大学。

私が科学を支援するのは科学が長期にわたり人類の役に立つことを信ずるからであります。科学により人間はより健康な生活を送ることができるようになります。事実上、私たちが日常接するあらゆるものが基礎科学によって改良され、あるいは進歩します。私たちの生活水準全体の進歩は、科学研究の成果と密接に結びついています。

私たちの快適な生活、健康、現在知られている寿命、これらは科学技術のおかげなのです。100年前の平均寿命は47歳でした。結核や小児麻痺は不治の病でした。抗生物質は存在しておらず、実に多くの病気が致命的でした。

自分の足で歩くか馬に乗って旅をし、届くまで何ヶ月もかかる手紙によって通信しました。私たちの今日の生活があるのは、科学が与えてくれた進歩のおかげです。

私たちは精力的に寄付を行うことにより世界中の科学を支援しております。

社会に対する恩返しはアメリカの偉大な伝統であり、我々の寄付行為の伝統をアメリカの素晴らしい友人である日本と共有できることは私の大きな喜びであります。私たちの求めていることは、世界中、国境を越えて協力することにより優れた科学を支援することであり、IPMUとパートナーとなることは格別に名誉なことでもあります。

どうもありがとうございました。

ロバート・コン Robert Conn

カブリ財団理事長



おはようございます。本日はどうもありがとうございます。フレッド・カブリのご挨拶をお聞きいただき、彼の強い熱意をお分かりいただけたと思います。それこそ彼と共に働くことが大きな喜びである理由なのです。

本日、カブリ財団からの東京大学への寄付とIPMUがカブリの名を冠しカブリIPMUとなることを祝し、濱田総長、今回の合意に至るまでに多大なご協力をいただいた松本理事・副学長、村山機構長、そして東京大学の全ての方々に御礼申し上げます。

東京大学は常に世界の大学ランクで20位以内にあり、世界の優れた大学と肩を並べております。科学において優れた発見の歴史を有しており、5年前に日本でWPI（世界トップレベル研究拠点形成プログラム）によりIPMUが創設されたことは、東京大学の科学におけるリーダーシップをさらに強力に前進させるものでありました。

フレッドが述べたように、カブリ財団は、科学が全ての人々のために生活を改善する上での担い手であると信じています。この信念は私どもだけのものではありませんが、私共は他の大多数の社会貢献事業とは違うやり方で科学を支援しております。カブリ財団は基金を寄贈するという形で支援を行います。

基金は東京大学に永久に贈られたものであり、村山機構長が挨拶で述べられたように、カブリIPMUは毎年この基金からの収入を自由に使うことができます。

私共の社会貢献への取り組みは、現在世界中で16ヶ所を数えるカブリ研究所に対して、たとえ何らかの曙光が見え始める前の段階であったとしても、新しい発見を追究するために必要な自由度を提供するものであると深く信じております。カブリIPMUを始め、各研究所は研究者のピカッと光るアイデアを支援し追究する手段を有しているのです。それが私たちのしていることです。

また、私たちは、IPMUで行われている極めて基礎的な研究の素晴らしさに強い感銘を受けております。日夜この研究に携わっている人たちが、今この部屋に大勢おられると承知しています。あなた方は世界に影響を与えているのです。ですから、カブリIPMUの研究者と職員全員に感謝します。

濱田総長が述べられたことに、カブリIPMUの研究計画および研究者の国際的な性格があります。これはWPIプログラムの非常に強いガイドラインに従ったものです。私たちはIPMUでは会話も研究も通知も英語を公用語としていること、多数の外国人研究者を雇用

していること、そして新しい枠組みの組織体制を確立したことに感銘を受けております。これは日本では前例のないことであり、私は日本の将来への途を示す模範となるものと思います。

私たちは明らかにIPMUが科学界で世界的に高い認知度をもつ真に優れた国際的研究所であると確信しています。そして、この式典を祝うため、世界中から他のカブリ研究所長、その他このように多くの方々が出席されたことは、あなた方が成し遂げた偉業を示すものです。

東京大学とカブリIPMUを世界中のカブリ研究所ファミリーにお迎えすることを光栄に思います。全てのカブリ研究所があなた方の努力から利益を得ると共に、あなた方のおかげで全てのカブリ研究所が益々努力をすることになるでしょう。この交流を通じて全世界の人々がより良い生活を送れるようになることが私たちの希望です。ご静聴いただき、ありがとうございました。

井村 裕夫* いむら・ひろお

世界トップレベル研究拠点プログラム委員会委員長



東京大学濱田総長、カブリ財団カブリ会長、IPMU村山機構長、ご列席の皆様、WPIプログラム委員会を代表し、カブリ数物連携宇宙研究機構の発足をお祝いし、ご挨拶を申し上げます。

世界トップレベル研究拠点形成プログラム(WPI)は、研究資金の提供を目的とした従来の研究費とは異なって、既存の制度にとらわれない優れた研究環境を実現することで、世界中から第一線の研究者が集まり、自由、闊達に研究できる研究拠点を構築するため、2007年に発足いたしました。プログラム委員会は当初5つの拠点を選定し、プログラムディレクター、プログラムオフィサー、作業委員会を設けて、緊密なチームワークのもとWPIの目標を達成するべくフォローアップを行ってまいりました。時には厳しい意見を申し上げたこともありますが、研究拠点はホスト機関と一体となって対応して頂きました。IPMUと東京大学のご努力に、この場をお借りして感

謝申し上げます。これは私が感謝を申し上げる最初の例です、村山先生。(一同笑)

わが国は地理的に欧米諸国と離れており、言語、社会習慣も異なりますので、国際的な研究拠点を形成することは容易ではないと思います。プログラム委員会が懸念したことも、その点でありました。IPMUは村山機構長と関係の皆様活躍で、わずか5年間という短期間の内に国際的に高い評価を受け、この度カブリ財団から永続的な寄付を受けることになったことは、世界から“目に見える拠点”を構築することを目指してきたWPIプログラム委員会としても大変喜ばしいことでもあります。まさにIPMUが世界から認知されたことを示すものとして、委員会も一致して支持を表明いたしました。カブリIPMUとして将来永続的な研究機構へと発展する基盤ができたことは、大変心強いことでもあります。

カブリ会長が仰ったように、基礎科学の振興は、人類の幸福と発展の

ために欠くことができない世界共通の課題であります。そのためには研究者が行き来して研究でき、また人材を育成できる拠点が多く必要となります。カブリ財団の理念も、まさに人類の利益のためであると考えます。カブリIPMUはまだ若い組織であり、今後の成長のためには多くの困難もありましょうし、そのため様々な支援が必要であることは言うまでもありません。東京大学の濱田総長は、わが国の大学を国際的に開かれた組織とするため、先頭に立って活動しておられます。カブリIPMUの発展のためにも、今後一層のご尽力をしていただけるものと期待しております。

最後になりましたが、もう一度心からのお祝いを関係の皆様へ申し上げ、研究機構の発展と皆様の一層のご活躍を祈念して、私の挨拶とさせていただきます。

*財団法人先端医療振興財団理事長、元京都大学総長(1991-1997)。

吉田 大輔 よしだ・だいすけ
文部科学省研究振興局長



おはようございます。日本政府を代表しまして、一言ごあいさつを申し上げます。

まずは、本日の記念式典の開催、誠におめでとうございます。ここに至るまでの関係の皆様方の多大なご尽力に敬意を表したいと思います。

さて、皆様ご案内のとおり、優秀な研究者を巡っては、世界的な頭脳循環が益々盛んになっています。我が国としては、世界トップレベルの基礎研究の強化やシステム改革を、科学技術基本計画に基づき推し進めていますが、「世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)」は、頭脳循環に対応し、これを実現するためのフラッグシップ的なプログラムであり、文部科学省としても力を入れて推進しているプログラムです。

このWPIによって設立された東京大学IPMUは、大きな期待をかけられながら、着実に前進してきました。昨年実施された中間評価においてはS評価を得るなど、我が国の研究環境に

新たな風を吹き込みながら、目覚ましい発展を遂げてこられたとあってよいでしょう。

そして、今般、ご臨席されているカブリ氏が崇高な目的のために設立され、世界の基礎科学を強力に支援する国際的な財団であるカブリ財団から、このようなサポートを受けるに至り、IPMUがKavli IPMUとなることは、非常に喜ばしいことと感じています。WPIが推進してきた取組、そしてIPMUが成し遂げてきたことが、国際的にも認知された証左とあってよいでしょう。

WPIでは、国からの支援期間が終了した後も、拠点が存続することを期待し、求めています。それに向けては、拠点はもとより、ホスト機関である東京大学の引き続きの様々なご努力が欠かせないと考えますが、今般、IPMUが恒久的な支援を得たことは、存続に向けた実績を一つ積み重ねられたものと評価しています。

Kavli IPMUが、これを機に、国際

的な評価を更に高め、素晴らしい研究活動を継続していかれること、そして、益々発展していかれることを心から祈念しております。そして改めて、ご臨席の皆様のご尽力に敬意を表し、ますますのご健勝を祈念いたしまして、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

ジョナサン・ドーファン* Jonathan Dorfan

沖縄科学技術大学院大学理事長・学長



村山さん、フレッド、濱田総長、ご出席の皆様、

世界トップクラスの研究機関となることが約束されているカブリIPMUの発足を、皆様と共に祝うことができれば大きな喜びでありましたが、妻のルネと私が出席できませんことをまことに残念に思います。フレッドおよびカブリ財団とは、ほぼ10年を共にして参りました。これは私にとってこの上ない名誉であり、喜びであります。私はカブリ・ファミリーの一員であることが如何に大きな利益と便宜をもたらすか、直接体験していることを申し上げます。そして、最近私が沖縄に赴任したこともあり、今や日本が正式にファミリーに加わったことにひとしお深い感慨を覚えます。

そのような次第で、心よりお祝い申し上げます。また、村山さんの素晴らしいリーダーシップと、カブリ財団の賢明な支援、及び東京大学の傘下にあることにより、考えられる限りの夢でさえ実現されるであろうことを心より期待し、大きな幸運に恵まれることを祈念いたします。

カブリIPMUの出発を見届けることは、私自身同様の努力をしてきたの

で、まるで一周して元に戻ったような、単なる友人や立会人を超えた感覚を覚え、格別にうれしく思う次第です。1999年の初めでしたが、私はSLAC（スタンフォード線形加速器センター）の所長としての役割について熟考を重ねた末、スタンフォードに素粒子天体物理学・宇宙論の研究所を立ち上げることを思いつきました。当時、スタンフォード大学のキャンパスには、その分野で主要とはいえない小さなプロジェクトが一つあるだけでした。しかし、グラスト衛星（現在はフェルミ衛星と呼ばれている）が本格化しつつあり、その結果SLACとスタンフォード大学本体がもつその分野の能力を融合させることが可能となりました。ほんの数年後、チェン氏夫妻**の多大なご寄付並びにカブリ財団からのご支援・ご指導により、KIPACが実現致しました。そしてスタンフォードにロジャー・ブランドフォード、スティーブ・カーンの両氏と、その後多くの優れた教授陣及び若手研究者を招くことができました。その結果、今やスタンフォードはこの分野の研究で世界をリードしています。このように10年という短期間でも夢を実現することは可能なので

す。

2007年にSLACの所長を退いて間もなく、故戸塚洋二氏から電話があり、KIPACについての質問と共に、東京大学に同様の研究所を創設することに助力してはもらえないかと聞かれました。残念ながら当時、私はスタンフォードにハドロンビームによるガン治療施設を誘致する努力に深く関わっていたため、辞退いたしました。東京大学が村山さんに白羽の矢を立てて、研究所を率いることを引き受けていただけたことは幸運でした。そして、私は全く違った道を通して東大と関係の深い大学の学長として日本にやってきました。今、私の希望は、沖縄科学技術大学院大学が東京大学及びカブリIPMUとの密接な協力関係を構築できないかということです。

最後にもう一度、お目度とうございます。そして2日間の式典と記念行事の成功を祈念いたします。

* 前SLAC所長（1997-2007）。式典に出席できなかったため、シメオン・ヘラーマン特任准教授がメッセージを代読。

** BroadVision（ブロードビジョン）社の創始者で社長のピーホン・チェン（Pehong Chen）氏とアデル（Adele）夫人がカブリ財団に先立ち1500万ドルを寄付し、当初研究所名称に夫妻の名を冠した。研究所名称がKIPACとなったからは研究所長職の名称及び基金として名を冠している。

ロジャー・ブランドフォード Roger Blandford

スタンフォード大学カブリ素粒子天体宇宙研究所 所長



濱田総長、フレッド・カブリさん、村山機構長、

本年3月17日にスタンフォード大学のカブリ素粒子天体物理学・宇宙論研究所は例年同様9回目の創設記念日を祝いました。ここに至るまで、私たちのカブリ研究所の発展、所員の研究者としての成長、アイデアから始まったプロジェクトが予算を得て実施されるに至る展開、そしてとりわけ科学的発見が明らかとなっていく過程を見るという素晴らしい時を過ごしました。これまでなし遂げたことは私の誇りとするところでありますが、どれもフレッド・カブリさんとカブリ財団による将来を見通した支援と取り組みがなければ不可能だったであろうと思います。

この間、私はカブリ財団も構想力と知恵と熱情豊かに発展し、新しい事業を展開し、新しい研究所を育てる様子を見て来ました。財団と共に活動し、思慮深い助言をいただいたことは誠に喜ばしいことでした。また、仲間

のカブリ研究所と共に行った活動も素晴らしいことでした。物理学と天体物理学、宇宙論に関係した研究所は当然共通する類似点がありますが、他の8つの研究所も同じファミリーに属しており、例えばカブリ財団の支援する全分野からの発表もあった計算科学の新しい方向を探る2つの国際研究集会は、全てのカブリ研究所を結集させるテーマで大成功を収めました。

村山さん、そのような次第で、この式典に参加できたことは私にとって大きな喜びです。これまでカブリ研究所ファミリーとして私たちは互いに助け合ってきましたし、それは今後ますます強化されることを確信しています。各研究所は、中核的部分は共通していますが、またそれぞれ独自の個性もっています。この点で数学と明示的な強い関係をもつあなた方の研究所の重要性は明らかです。心よりお祝い申し上げます。今後の協力と共同研究を、また時には競争もあると思います。本日はおめ

でとうございます。そして、ようこそとても幸せなカブリ・ファミリーへ。

ジョージ・エフスタシオ George Efstathiou

ケンブリッジ大学カブリ宇宙論研究所 所長



カブリ研究所ファミリーについて何度も話がありました。私たちの研究所は今日まで天体物理学で最も若い研究所でした。ですが、うれしいことにもう赤ん坊ではありません。新生児の誕生を祝してここに集まったわけですから。しかし、来てみると、この新生児はただの新生児ではありませんでした。普通、家族が増えると兄や姉は新生児の世話をしなければなりませんし、いろいろ教えなければなりません。しかしここにいるのは大きな赤ん坊で、とても発育が良く、すでに何ヶ国語も話していますし、群論だって話しています。ですから、例え話は成り立たないようです。

しかし、ロジャーが触れた点に戻りますと、私たちの研究課題は極めて国際的なものであり、全てのカブリ研究所の間には既に強い協力関係が自然にできあがっています。しかし、私たちにはカブリ研究所に共通する課題をもっと発展させられるのではないかと思います。私たちはカブリ研究所の

所長としてそのことを議論するべきではないかと思います。換言すると、カブリ・ファミリーの一員であることはそれだけで快適ですが、私たちはファミリーとしての事業の展開を考えることができるのではないか、私たちはそれを模索するべきであると考えます。

IPMUとフレッド・カブリ氏、およびカブリ財団にケンブリッジ大学を代表してお祝い申し上げます。宇宙はとても興味深く、尽きることのない驚きに満ちています。どうもありがとうございました。

シアオウェイ・リュウ Xiaoway Liu

北京大学カブリ天文・天体物理研究所 所長代理



北京大学カブリ天文学・天体物理学研究所を代表して新しくファミリーの一員をお迎えしたことをカブリさんと村山機構長に心よりお祝い申し上げます。

私は素晴らしい喜びを感じています。飛行機で3時間足らずでビジョンと興味を共有する同僚・友人に会いに来られるわけですから。東大は日本で最初の総合大学です。北京大学は東大から20年後の1898年に創立された中国で最初の総合大学です。両大学は現在、時代の先端に立とうと、新しい世紀に立ち向かっております。そして濱田総長が仰られたようにカブリIPMUは日本でまさに最初の国際的研究所であり、中国においてKIAAも同様であります。両研究所は共に英語を公用語として採用しております。KIAAの教授陣とポストクの50%以上が中国籍をもたず、カブリIPMUでも日本国籍をもたない研究者の割合が同程度です。

従って、私たちはこの進歩と改革の

道筋で多くの点を共有していると思います。私はあなた方のような道連れを得たことを大変嬉しく思います。将来、多くの点で協力し、助け合うことができると確信しています。新しくファミリーの一員となられたことを心より歓迎します。繰り返しますが、この新しい展開を私たちは本当に喜んでおります。カブリさん、カブリ研究所ファミリーにこの素晴らしい贈り物をいただき、ありがとうございました。最後にもう一度、感謝とお祝いの言葉を申し上げます。

ユエリアン・ウー Yue-Liang Wu

中国科学院カブリ理論物理学研究所 所長

おはようございます。濱田総長、カブリさん、村山機構長にお礼申し上げます。

カブリ・ファミリーの一員として、新たなメンバーを歓迎することは私の大きな喜びであり、名誉とするところでもあります。本日伺いましたように、IPMUは私たちと同様に世界に知られた研究所になりました。また、カブリIPMUは数学と理論物理学と実験物理学を結びつけるユニークな研究所です。今日、私たちには理論物理学により提案された多くのアイデアがありますが、それらは一方では厳密な数学によって導かれる必要があります。他方では実験によるテストが必要です。これがカブリIPMUがユニークである理由です。カブリIPMUは全ての要素を結びつけています。但し、現在のところ単独では不十分であり、二つあればと思います。さて、アイデアの実現のために、私たちには団体や個人からの支援が必要ですが、大学および政府の研究資金配分機関、さらにはカ

ブリ財団を初めとする財団がこの役割を担います。

私たちはまた、カブリIPMUが、宇宙はどのように始まったのか、宇宙は最も初期のインフレーション宇宙から現在の加速膨張宇宙にどのようにして進化したのか、なぜ私たちの宇宙は反物質が無く物質だけからできているのか、素粒子の質量の起源は何か、なぜクォークとレプトンには3世代あるのか、といった根本的な疑問に焦点を絞っていることを知っております。これらは全て根元的な問題であり、カブリIPMUだけでなく、他の幾つかのカブリ・ファミリーの研究所でも研究されております。

従って、私たちには共に研究し、研究協力に進む多くの問題があります。基礎研究を迅速に進めるためには研究協力が必要です。カブリIPMUは中国科学院のカブリ理論物理学研究所 (KITPC) 及び北京大学のKIAAに地理的に最も近いファミリーメンバーです。従って、今後の更なる研究協力と

研究者交流を望む次第です。実際はKITPCの交流プログラムには日本からの参加者が増え続けており、将来はカブリIPMUからの参加者も更に増えることを期待します。カブリIPMUの今後益々の成功を祈念いたします。ありがとうございました。

